

みずほマーケット・トピック(2014 年 7 月 18 日)

週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	3. 本日のトピック:「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～	

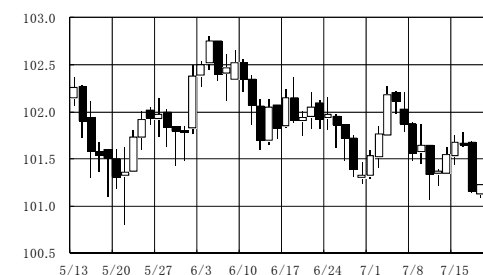
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に急落する展開。週初 14 日に 101 円台前半でオープンしたドル/円相場は、世界的な株価の上昇を受けて 101 円台後半までじりじりと上昇。15 日、注目されたイエレンFRB 議長の米上院議会証言は従来通りのハト派の内容で特段のサプライズはなかったものの、一部が期待していたほど緩和的ではなかったとの受け止めから米金利が上昇すると、ドル/円も 101 円台後半まで上昇した。16 日にかけては、米 6 月生産者物価指数の市場予想を上回る結果や地区連銀経済報告(ページブック)において経済の拡大ペースが報告されたことなどが好感されドル買いが強まると、ドル/円は一時週高値となる 101.79 円をつけた。しかし翌 17 日には、米 6 月住宅着工件数の予想外の悪化を嫌気し、ドル/円は 101 円台前半まで下落。その後、ウクライナにおけるマレーシア旅客機の墜落やイスラエル情勢の緊迫化を受けリスク回避ムードが強まると、ドル/円は 101.14 円まで下げ幅を拡大。本日にかけてもリスク回避の円買い地合いが継続する中、ドル/円は週安値を更新する場面も見られ、101 円台前半で上値の重い値動きが継続している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初 14 日に 1.36 近辺でオープンしたユーロ/ドルは、ポルトガル国内銀行への懸念が後退する中、一時週高値となる 1.3640 をつけ、その後は 1.36 台前半で底堅く推移した。だが 15 日に入ると、独 6 月 ZEW 景況感調査の市場予想を下回る結果や米金利上昇を受けたドル買いに、ユーロ/ドルは 1.35 台後半まで下落。16 日にかけてもドル買い地合いが継続する中、ユーロ/ドルは 1.35 台前半まで続落し、狭いレンジでの値動きに。17 日は米 6 月住宅着工件数の悪化を受けたドル売りにユーロ/ドルは強含む場面が見られるも、その後、ウクライナにおけるマレーシア旅客機の墜落やイスラエル情勢の緊迫化を受けリスク回避ムードが強まると、ユーロ/ドルは 1.3516 まで下落した。本日にかけてもリスク回避の動きが継続する中、ユーロ/ドルは週安値を更新する場面もみられ、1.35 台前半の安値圏で軟調な地合いが継続している。

今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週				
		7/11(Fri)	7/14(Mon)	7/15(Tue)	7/16(Wed)	7/17(Thu)	
ドル/円	東京9:00	101.31	101.36	101.54	101.67	101.65	
	High	101.42	101.62	101.75	101.79	101.70	
	Low	101.22	101.33	101.44	101.64	101.14	
	NY 17:00	101.37	101.54	101.67	101.66	101.16	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3604	1.3602	1.3622	1.3571	1.3528	
	High	1.3625	1.3640	1.3628	1.3572	1.3540	
	Low	1.3592	1.3598	1.3562	1.3521	1.3516	
	NY 17:00	1.3607	1.3619	1.3568	1.3526	1.3526	
ユーロ/円	東京9:00	137.78	137.88	138.32	138.00	137.48	
	High	138.05	138.46	138.43	138.08	137.53	
	Low	137.68	137.83	137.89	137.49	136.83	
	NY 17:00	137.97	138.29	137.98	137.55	136.87	
日経平均株価		15,164.04	15,296.82	15,395.16	15,379.30	15,370.26	
TOPIX		1,255.19	1,265.46	1,273.68	1,273.59	1,273.38	
NYダウ工業株30種平均		16,943.81	17,055.42	17,060.68	17,138.20	16,976.81	
NASDAQ		4,415.49	4,440.42	4,416.39	4,425.97	4,363.45	
日本10年債		0.54%	0.54%	0.54%	0.55%	0.54%	
米国10年債		2.52%	2.55%	2.55%	2.53%	2.45%	
原油価格(WTI)		100.83	100.91	99.96	101.20	103.19	
金(NY)		1,337.40	1,306.70	1,297.10	1,299.80	1,316.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では 22 日(火)に米 6 月中古住宅販売が発表される。中古住宅販売は 5 月に前月比+4.9%と 2011 年 8 月以来の増加率となり、回復の遅れが指摘されていた住宅市場が春先以降、着実に持ち直していることを確認する結果となった。先行指標である 5 月中古住宅販売留保指数は同+6.1%と 3 か月連続で上昇し、2010 年 4 月以来の伸びを記録している。住宅ローン金利の低下や住宅供給の増加が販売を押し上げている模様で、6 月中古住宅販売は前月比+1.6%の年率 497 万件が予想されている。また、翌 24 日(木)には 6 月新築住宅販売がある。6 月の住宅市場指数は 49 と 6 か月ぶりに上昇し、伸び幅は約 1 年ぶりの大きさとなり、7 月も 53 と前月に続き大幅上昇し、住宅建設業者のマインド改善が続いている。中古住宅と同様に、新築住宅販売も持ち直しが続いているとみられるが、5 月に前月比+18.6%と急伸しており、その反動から 6 月は同▲4.8%の年率 48.0 万件と減少が見込まれている。
- 住宅周りの指標以外では、22 日(火)に 6 月消費者物価指数(CPI)の発表がある。5 月 CPI は前月比+0.4%の上昇を記録し、約 1 年ぶりの高い伸びを示した。変動の大きい食品とエネルギーを除くコア CPI も同+0.3%と 2011 年 8 月以来の高い伸びとなり、早期の利上げ期待が俄かに強まった。雇用統計では毎月の非農業部門雇用者数(NFP)が安定して 20 万人を上回る増加をみせ、失業率も段階的に低下し 6%付近へと近づく中、米国の金融政策運営における物価動向がますます重要な役割を果たすとみられる。イエレン FRB 議長は直近の強めの物価指標を「ノイズ」として一蹴したが、インフレ率の上昇が続けば想定よりも早いタイミングでの利上げを市場は意識せざるを得ない。既に発表されている 6 月生産者物価は前月比+0.4%とエネルギーが押し上げたとはいえ予想以上の上昇となっており、CPI が予想を上振れてくるか注目したい(市場予想の中心:前月比+0.3%)。そのほかには、今晚に 7 月ミシガン大学消費者マインド指数(速報)があるほか、25 日(金)には 6 月耐久財受注の発表などが予定されている。
- 本邦では、24 日(木)に 6 月貿易統計が発表される。6 月上中旬分(1~20 日)までの貿易統計では、輸出が前年同月比+1.1%と 2 か月ぶりにプラスに転じ、輸入は同+10.3%と 2 か月連続でプラスとなった。輸出については自動車、金属加工機械、船舶が増加し、輸入については原油、石油製品、液化天然ガスが押し上げた模様である。貿易収支は▲8017 億円の赤字となっており、月間ベースでも同程度の赤字を計上すると予想されている(市場予想の中心:▲6653 億円)。

	本 邦	海 外
7 月 18 日(金)	-----	・米 7 月ミシガン大学消費者マインド指数(速報) ・米 6 月景気先行指数
21 日(月)	休 場(海の日)	-----
22 日(火)	・4 月景気動向指数(確報)	・米 6 月消費者物価 ・米 6 月中古住宅販売
23 日(水)	-----	-----
24 日(木)	・6 月貿易統計	・米 6 月新築住宅販売
25 日(金)	・7 月東京都区部/6 月全国消費者物価 ・6 月企業向けサービス価格	・米 6 月耐久財受注

【当面の主要行事日程(2014 年 7 月~)】

米 FOMC(7 月 29~30 日、9 月 16~17 日、10 月 28~29 日)
 欧州中銀理事会(8 月 7 日、9 月 4 日、10 月 2 日)
 日銀金融政策決定会合(8 月 7~8 日、9 月 3~4 日、10 月 6~7 日)
 G20 財務相・中央銀行総裁会議(9 月 20~21 日、ケアンズ)

3. 「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～

地政学的リスクを受けて乱高下

昨日の為替相場はロシア国境に近いウクライナ東部においてマレーシア旅客機が撃墜されたとの報道を受けて一気にリスクオフムードが支配的になり、円相場が全面的に上昇している。乗員乗客 295 名が全員死亡し、その国籍には欧米人が多数含まれているとの報道を踏まえると、今後発表が予想される対ロシアへの制裁は非常に強いものになることが予想される。また、同じタイミングでイスラエル軍のガザ地区への地上侵攻開始も報じられており、市場参加者としては地政学的リスクの高まりを意識せざるを得ない状況にある。こうした中では定石通り、為替相場では円、債券相場では米国債が買われており、米金利は急低下している。この結果、昨日のドル/円相場は高値である 101.70 円から昨日は 101.14 円まで急落する展開が見られている。

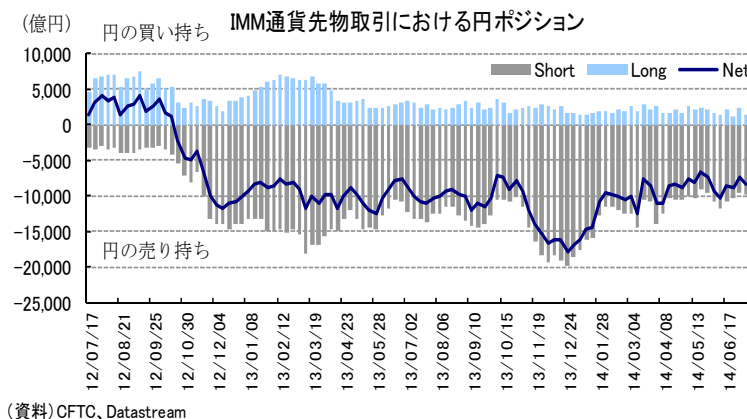
2014 年のテーマは「事故的なイベント」を逃さないこと

2 月末のウクライナ危機、6 月初旬にはイラク問題、そして昨日の航空機撃墜にガザ侵攻と、今年のドル/円相場はことごとく地政学的リスクに上昇を阻まれている（厳密には今回の問題もウクライナ危機に類するものだが）。ドル/円相場の今後 1 年の見通しテーマに関しては、筆者は常に『中期為替相場見通し』の中で、以下のような指摘を行ってきた（以下、2014 年 6 月 30 日号より抜粋）：

- 狭いレンジに閉じ込められながらも、「如何に巧く押し目を拾うか」というのが予測期間中のテーマであり、年明け以降に経験したウクライナ情勢を巡る動揺や新興国市場の混乱そして 6 月になって取り沙汰されるようになったイラク問題などのような「事故的なイベント」は押し目の好機と考えるべきである

こうした筆者の見立ては今でも全く変わらない。この先、事態がさらに深刻化して 101 円割れないし 100 円割れまでの動きは確かに想定し得るかもしれない（『中期為替相場見通し』では 7～9 月期に関し、99 円までの下値を予想し、期末値 103 円とさせて頂いている）。しかしだからと言って、日米金融政策の格差が是正されるわけではないし、日本の巨額の貿易赤字が解消されるわけでもない。アベノミクスが取り沙汰されるようになった 2012 年 10～12 月期以降、地政学的リスク以外にも何度か円高圧力の強まる局面を経験してきたが、その都度、「円高に戻るかもしれない」との恐怖感が抱かれながらも、一過性の動きで終わってきた。

例えば IMM 通貨先物取引に見る投機筋の円売り持ち高は過去 2 年間、ほぼ 1.0～1.5 兆円で安定してきた（図）。主要通貨で唯一、実質マイナス金利を実現している円の売り安心感は強く、今回のような「事故的なイベント」に対し必要以上の危機感を持つことなく、押し目買いの好機と割り切ることが極小レンジの中での処世術になるのではないか。裏を返せば、このような「事故的なイベント」に依存せずに、円高になるとしたら、一体どういった事態を想定すれば良いのか。米国経済の二番底そしてそれに伴う米金融政策の正常化プロセスの巻き戻し（＝追加緩和）などを想定すれば、円高再来はあるかもしれない。だが、流動性の吸収手法やその試運転（リバースレポや定期預金ファシリティなど）まで始まっている状況下では、現実的なシナリオとは到底言えないだろう。



以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

2014年7月の予定

日	月	火	水	木	金	土
6/29	6/30 5月鉱工業生産(速報) 5月新設住宅着工 米6月シカゴPMI	7/1 日銀短観(6月調査) 6月自動車販売台数 米6月ISM製造業 景気指数 米5月建設支出	2 6月マネタリーベース 米5月製造業新規受注 米6月ADP雇用統計	3 米6月雇用統計 米5月貿易収支 米6月ISM非製造業 景気指数 ECB理事会 (フランクフルト)	4 米独立記念日	5
6	7 5月景気動向指数(速報) ユーロ圏財務相会合 (ブリュッセル)	8 5月国際収支 6月貸出・預金動向 6月景気ウォッチャー調査 6月企業倒産件数 米5月消費者信用残高 EU経済・財務相理事会 (ブリュッセル)	9 6月マネーストック FOMC議事要旨	10 6月企業物価 5月第三次産業活動指数 5月機械受注 米5月卸売売上高	11 米6月財政収支	12
13	14 日銀金融政策決定会合 ・展望レポート(～15日) 5月鉱工業生産(確報)	15 米6月小売売上高 米7月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米5月企業在庫	16 金融経済月報 米6月生産者物価 米6月鉱工業生産 米5月TICレポート (対内対外証券投資) 米地区連銀経済報告 (米ページブック)	17 月例経済報告 米6月住宅着工 米7月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数	18 日銀金融政策 決定会合議事要旨 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(速報) 米6月景気先行指数	19
20	21 海の日	22 4月景気動向指数(確報) 米6月消費者物価 米6月中古住宅販売	23	24 6月貿易統計 米6月新築住宅販売	25 7月東京都区部/ 6月全国消費者物価 6月企業向けサービス 価格 米6月耐久財受注	26

(注) 2014年7月18日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

27	28	29 6月家計調査 6月労働力調査 6月商業販売統計 米FOMC(～30日) 米7月消費者信頼感指数 米5月S&P/ケース・ シラー住宅価格	30 6月鉱工業生産(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月期GDP (事前推定値)	31 6月新設住宅着工 米4～6月期雇用コスト 米7月シカゴPMI	8/1 7月自動車販売台数 米7月雇用統計 米6月建設支出 米7月ミシガン大学消費 者マインド指数(確報) 米6月個人所得・消費 米7月ISM製造業 景気指数	8/2
----	----	---	---	--	---	-----

(注) 2014年7月18日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

2014年8月の予定

日	月	火	水	木	金	土
7/27	7/28	7/29 6月家計調査 6月労働力調査 6月商業販売統計 米FOMC(～30日) 米7月消費者信頼感指数 米5月S&P/ケース・ シラー住宅価格	7/30 6月鉱工業生産(速報) 米7月ADP雇用統計 米4～6月期GDP (事前推定値)	7/31 6月新設住宅着工 米4～6月期雇用コスト 米7月シカゴPMI	8/1 7月自動車販売台数 米7月雇用統計 米6月建設支出 米7月ミシガン大学消費者マインド指数(確報) 米6月個人所得・消費 米7月ISM製造業 景気指数	2
3	4 7月マネタリーベース	5 米7月ISM非製造業 景気指数 米6月製造業新規受注	6 6月景気動向指数(速報) 米6月貿易収支	7 日銀金融政策決定会合 (～8日) 米6月消費者信用残高 ECB理事会 (フランクフルト)	8 6月国際収支 7月貸出・預金動向 7月景気ウォッチャー 調査 *7月企業倒産件数 米6月卸売売上高 米4～6月期労働生産性 (速報)	9
10	11 金融経済月報 7月マネーストック 6月第三次産業活動指数	12 7月企業物価 6月鉱工業生産(確報) 米7月財政収支	13 日銀金融政策 決定会合議事要旨 4～6月期GDP(1次速報) 米6月企業在庫 米7月小売売上高	14 6月機械受注	15 米8月ミシガン大学消費者 マインド指数(速報) 米8月ニューヨーク連銀 製造業景気指数 米6月TICレポート (対内対外証券投資) 米7月生産者物価 米7月鉱工業生産	16
17	18 *月例経済報告	19 6月景気動向指数(確報) 米7月住宅着工 米7月消費者物価	20 7月貿易統計 FOMC議事要旨	21 米7月景気先行指数 米7月中古住宅販売 8月フィラデルフィア 連銀製造業景気指数	22	23

(注) 2014年7月18日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

24/31	25 米7月新築住宅販売	26 7月企業向けサービス 価格 米7月耐久財受注 米6月S&P/ケース・ シラー住宅価格 米8月消費者信頼感指数	27	28 米4～6月期GDP (暫定推定値)	29 7月労働力調査 7月鉱工業生産(速報) 7月商業販売統計 7月家計調査 8月東京都区部/ 7月全国消費者物価 7月新設住宅着工 米8月ミシガン大学消費者 マインド指数(確報) 米8月シカゴPMI 米7月個人所得・消費	30
-------	-----------------	---	----	----------------------------	--	----

(注) 2014年7月18日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。なお、(*)を付したものは未定のものであることを表します。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か?～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため?
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを仄めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り?～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡?～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時?～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空爆示唆から思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か?
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア?
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBIにまつわる3つの「分かり難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「魅せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか?～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらす～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か?～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イェレンFRB議長証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか?
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～
2014年4月16日	米為替政策報告書～滲み出るドイツ及びユーロ圏への不満～
2014年4月15日	説得力に欠けるユーロ高牽制～通貨政策への傾斜を考える～
2014年4月14日	アベノミクスを巡る国内外の温度差～豪州出張を終えて～
2014年4月11日	週末版
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト?～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当に年内までか?～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに躍いた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か?～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見える円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見通し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10-20%～